

岡山大学

大学院社会文化科学研究科

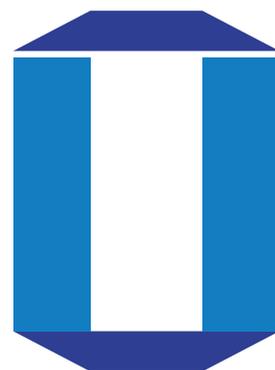
OKAYAMA UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL OF HUMANITIES AND SOCIAL SCIENCES

● 博士前期課程

- ・社会文化基礎学専攻
- ・比較社会文化学専攻
- ・公共政策科学専攻
- ・組織経営専攻

● 博士後期課程

- ・社会文化学専攻



OKAYAMA
UNIVERSITY

世界への扉を開く



2017年度 大学院案内

ご挨拶

大学院社会文化科学研究科は、人文社会科学系分野における「知」の継承・発展および地域への「知」の還元を目的として設置された、博士前期課程(2年制)と博士後期課程(3年制)からなる区分制大学院です。本研究科の前身は、昭和46(1971)年4月に設置された大学院文学研究科および同法学研究科にまで遡りますが、その後、独立大学院としての博士課程である文化科学研究科への改組を経て、平成18(2006)年4月に現在の社会文化科学研究科となりました。

本研究科は文学部、法学部および経済学部を基礎学部とし、その対象は人文社会科学系のほとんどの学問分野を網羅しています。本研究科の特色は、第1に、それぞれの専門分野における研究を深化させるだけでなく、多様な専門分野の教員を擁することで、学際性と総合性に配慮しつつ、先端的な研究成果にもとづき大学院教育を行っていることです。理論的・基盤的な学問内容を充実・深化させつつ、社会との関係性の深い学問の開拓にも努めています。

第2に、本研究科は、地域に根ざし、地域におけるリーダーとなる人材を育成しています。前期課程の組織経営専攻(ビジネススクール)は岡山県および近隣地域の企業あるいは組織の人材育成を、そして公共政策科学専攻の地域公共政策コースは地域政策を企画・立案できる人材の育成を目指しています。

さらに、第3の特色として、国際交流に積極的に取り組み、欧米やアジア等の諸大学と交流協定を結び、交換留学や教員の学術交流を進めています。平成22(2010)年4月には東アジアの諸大学との交流をさらに進めるために、研究科の附属施設として東アジア国際協力・教育研究センターを開設しました。

このように多様な学問分野を専門とする教員を擁し、地域社会および国際社会との積極的な交流をはかる本研究科は、専門分野の研究を深めたい方、人文社会科学系の学問に興味と関心を寄せる方、さらには自らの仕事のために専門的知識の取得やスキルアップを目指す方々の要望に必ず応えることができます。

現在の日本社会が少子高齢化や地域の衰退、グローバル化への対応などの諸課題に直面する中で、人文社会科学系の学問研究や専門的知識・スキルの取得は、個人や社会にとってますます重要となっていくものと思います。一人でも多くの方々が、こうした困難な課題に立ち向かう志をもち、私たちと共に、本研究科で学び、学問の追求と能力向上への道を歩まれることを期待しています。

どうか未来への扉を自らの手で開けてみてください。

大学院社会文化科学研究科長 佐野 寛

Admission Policy

～ 入学者受け入れの方針 ～

博士前期課程においては、最先端の研究に裏づけられた教育を施すほか、多様な分野に関わる複合的・学際的な研究を通して、広く文学・法学・経済学の各分野に通じた高度な知識・能力と技術・判断力を身につけた研究者や専門人の育成をめざすとともに、深い教養と国際的な感覚を身につけ、また物事を多角的に観察・洞察し、柔軟に社会の変化に対応できる能力の向上を図っています。

博士後期課程においては、「共生社会の構築」の理念に基づく、多様で学際的なアプローチからの研究を志向しています。

専門分野に関する基礎学力と柔軟な思考力、豊かな知性と感性を備え未知に挑戦する強い目的意識と探求心を持って、学術研究に意欲的に取り組む気概のある人を、国内外から広く受け入れています。

博士前期課程の組織経営専攻および地域公共政策コースにおいては、企業や官公庁・自治体等の個別具体的な組織の運営・経営のためのより適切な能力を身につけようとする人を受け入れています。

教育課程編成・実施の方針 (カリキュラムポリシー)

博士前期課程では、文学部・法学部・経済学部における基礎的専門教育との連続性に配慮したカリキュラムを編成し、今日における新たな教育に対する要請に応えるべく、複合的・総合的・学際的な教育を体系的に提供できる体制が整備されています。組織経営専攻および地域公共政策コースにおいては、地元の企業や官公庁・自治体の現場の経験に触れることができるよう配慮されています。

博士後期課程では、当研究科の理念である「共生社会の構築」等に基づいて、文化、組織、個人、地域社会等を対象にした、多様な、そして学際的なアプローチからの研究を支援する大学院教育プログラムを提供しています。

博士前期課程

当研究科には、社会文化基礎学専攻、比較社会文化学専攻、公共政策科学専攻、組織経営専攻の4専攻があります。これらの専攻は、文学部、法学部、および経済学部における基礎的専門教育との連続性に配慮しています。また、今日における新たな教育に対する要請を受け、複合的・総合的・学際的な教育を体系的に提供することができる体制となっています。

社会文化 基礎学専攻	哲学・思想文化論講座	西洋近代哲学、現代思想・倫理学、西洋古代中世思想史、日本思想史
	表象文化論講座	美学、日本美術史、西洋美術史、近現代美術史、オペラ表象論、文化表象論、メディア表象論、イギリス文芸表象論、ドイツ文芸表象論、フランス文芸表象論
	人間行動論講座	心理学、社会学、文化人類学、地理学
	法政理論講座	現代政治理論、西洋政治思想史、西洋法史、法哲学、法社会学
	経済理論・統計講座	マクロ経済学、ミクロ経済学、社会経済学、制度の政治経済学、統計学、国際経済学
比較社会文化学 専攻	日本・アジア言語文化論講座	近現代日本語論、日本語構造論、日本中世文学論、日本近世文学論、日本近現代文学論、中国詩歌論、中国近世戯曲小説論、中国近現代文化論、中国言語論
	欧米言語文化論講座	近代ドイツ文化論、現代ドイツ文化論、近代ドイツ文学論、ドイツ文芸学・文学史、近代ドイツ言語文化論、近代フランス文化論、近現代フランス文学論、フランス詩論、現代フランス小説論、イギリスルネサンス文芸論、現代アメリカ文学論
	言語情報論講座	個別言語文法論、言語類型論、現代日本語学、社会言語学、談話文法論、英語言語論、フランス言語論
	比較国際法政講座	国際私法、国際法、国際政治、アジア法
	比較経済講座	欧米経済史、東洋経済史、日本経済史、国際経済論、経済学史、社会思想史
	歴史文化論講座	東アジア古代中世史、東アジア近世史、東アジア近代史、東南アジア史、ヨーロッパ中近世史、ヨーロッパ近現代史、日本古代史、日本中世史、日本近世史、日本近現代史、考古文化論、比較考古学
公共政策科学 専攻	公共法政講座	憲法、行政法、情報法、税法、政治過程論、行政学、現代政治論
	政策科学講座	財政・金融論、公共・応用経済学、雇用・社会保障論
	司法政策講座	民法、民事訴訟法、商法、労働法、刑法、刑事訴訟法
	地域公共政策コース	環境政策、財政政策、経済政策、情報政策、労働政策、政策分析
組織経営 専攻	経営学講座	経営戦略論、リーダーシップ論、人的資源管理論、地域企業論、マーケティング論
	会計学講座	財務会計論、管理会計論、コーポレートファイナンス、監査論、税務会計論
	組織経済学講座	データ解析、企業経済学

博士後期課程

当研究科の博士後期課程には、社会文化学専攻があります。この専攻には、文化共生学講座(人間文化・社会文化論)、人間社会科学講座(日本文化・比較社会発展論)、政策科学講座(公共政策・現代企業論)の3つの講座があります。ここでは、当研究科の理念である「共生社会の構築」等に基づいて、文化、組織・個人、(地域)社会等を対象に、多様な、そして学際的なアプローチから研究を志向しています。

社会文化学専攻

文化共生学講座	人間文化論
	社会文化論
人間社会科学講座	日本文化論
	比較社会発展論
政策科学講座	公共政策論
	現代企業論

Contents

～ 二つのプログラム導入(博士前期課程)で、より学びやすく、きめ細かい指導へ ～

▶ 共通のコアカリキュラムで、人文・社会科学の基礎を学ぶ

- 社会文化学基礎論1 1年次前期前半 1単位 全員必修
- 社会文化学基礎論2(文学系・法学系・経済学系) いずれか1単位必修

▶ 研究深化プログラム

専門の講義・演習・特別演習を履修して、学術的でオリジナルな修士論文を作成して修了。

専門分野に係る高度な知識・能力と技術・判断力の修得を目指す学生や、博士後期課程へ進学(進学試験があります)し、博士の学位取得を最終目標とする学生向けのプログラムです。主として、教員や研究者等を養成することを目的とします。

▶ リサーチプログラム

幅広く講義演習を履修し課題演習を経て、特定課題に関わる研究報告書を作成して修了。

職業等に活かせる専門的な知識の修得を目指す学生や、日本語及び日本社会を初めとする多方面の知見の修得を目指す外国人学生向けのプログラムです。主として、高度な専門能力をもった職業人を養成することを目的とします。

- 博士前期課程のどちらのプログラムでも修士の学位を取得できます。
- 社会人・職業人への配慮

┌ 昼夜開講制、(一部の授業は土日にも開講)
├ 長期履修制度
└ WebClassの活用

◆ 詳しくはホームページで紹介しております。 <http://www.okayama-u.ac.jp/user/hss/index.html>

研究 Topics

～ 特色ある研究内容等 ～

▶ 池田家文庫(文)

岡山大学附属図書館では、初代岡山藩主池田光政が寛永9年(1632)に鳥取から岡山城に入城して以来、明治4年(1871)の廃藩置県に至るまでの約240年間の岡山藩のさまざまな藩政資料及び池田侯爵家収蔵の図書類からなる池田家文庫を所蔵しています。領国支配を行っていた藩の藩政資料が一括して残るのは全国でも数えるほどですが、岡山大学ではこうした貴重な学術情報資源を学部・大学院での教育と研究に積極的に活用しています。このほかに美作地域の旧勝山藩の三浦家文書やさまざまな村方文書なども充実しており、地域資料の調査も継続して行われています。原文書と現地に即した生きた地域史研究に取り組んでみませんか。



岡山大学附属図書館所蔵

▶ 地理学(文)

今日、グローバル化が進行するなか、ローカルな地誌学的(地域)研究の重要性が増しつつあります。グローバル化によって生じる地域の現象や課題は、地域間の比較を通して明確なものとなるからです。そのため、世界の諸地域だけでなく日常的な近隣の地域においても多次元からの地域分析が求められます。これまで、人間行動論講座の地理学領域では、近隣の諸都市や産業地域、中山間地域などを事例地域とし、その社会や経済、文化などの地理的事象を解明した研究が多く蓄積されてきましたが、カナダ、アメリカ合衆国、中国の都市やインド、オーストラリアの産業地域などを対象とした研究もあり、多様な地理的事象かつ多様な対象地域において地域研究を行うことが推奨されてきました。この自由度の高い研究環境のもと、近年では、大学教員も輩出しています。地域の動態に関心がある方のみならず、研究者を目指そうとしている方にも最適の研究環境が保証されています。



調査地・ヴァンクーヴァーの都市景観

留学制度

●岡山大学短期留学プログラム

13カ国36大学と授業料等を不徴収とする大学間交流協定を締結しており、これらの協定大学へ日本人学生を派遣しています。

●部局間国際交流協定に基づく交換留学プログラム

社会文化科学研究科と海外の大学と国際交流協定を締結し、学生の留学(派遣・受入)を行っています。
海外の国際交流協定校(中国・韓国・台湾)の数校と双方向学位制度を実施しています。

●大学間国際交流協定に基づく交換留学プログラム

大学全体として様々な学問分野で海外の大学・研究所と国際交流協定を締結し、学生の留学(派遣・受入)を行っています。

●海外派遣学生支援事業

海外の大学に派遣される学生で、学業成績、人物ともに優れている者に対して、奨学援助を行っています。



協定校:中国吉林大学

留学生の声

「一期一会」

私は中国の吉林大学から1年間の交換留学生として来日しました。今でも飛行機を降りて初めて異国の地を踏んだ時の興奮と緊張をはっきりと覚えています。岡山大学での留学生活を通じて、私は大きく成長できました。社会文化科学研究科には「東アジア共生プログラムコース」をはじめとする留学生向けの授業が開講されており、また指導教員の先生には論文を丁寧に指導していただきました。長期留学を希望する場合には、ダブル・ディグリープログラムや留学生のための海外特別入試もあります。日本三名園の一つである後楽園では、満開の桜の下、日本を満喫することもできました。「一期一会」は私が大好きな日本語です。私にとって社会文化科学研究科での留学生活は、まさに「一期一会」のかけがえのない経験となりました。

O-NECUS短期留学生 任 成禕(吉林大学)

東アジア国際協力・教育研究センター

東アジア国際協力・教育研究センターは、東アジア及びその近隣地域との教育・学術交流の推進、研究成果の国際発信及び国際学術ネットワークの整備と管理等を目的として設置されました。具体的には、国際交流協定の締結や留学プログラムの運営、国際シンポジウムの開催、留学生や留学希望学生へのサポート等を行っています。

特に教育・サポートとしては、留学生・留学希望者向けプログラム「東アジア共生プログラムコース」の運営の他、留学生への論文執筆支援やランゲージパートナーの紹介、国際交流パーティーの開催等を行っています。また留学生や留学希望学生を対象とした個人相談も随時受け付けています。



「東アジア共生プログラム」のフィールドワークの様子

修了生の就職先(過去3年間) ※ 社会人入学の現職を含む

博士前期課程

【公務員・教員】

岡山県庁/兵庫県庁/岡山市役所/津山市役所/笠岡市役所/明石市役所/倉敷鷺羽高校/松江東高校/神戸星城高校/マナド国立大学/南あわじ市役所/倉敷市役所/愛知県教員/明誠学院高等学校

【企業等】

英田エンジニアリング/カイトック/新日本有限責任監査法人/山陽新聞社/中国銀行/ソフトバンク/岡山中央病院/日本郵便中国支社/原田司法書士事務所/倉敷中央病院/ニチリン/オージー技研/税理士法人ユニオン/南工中金/みのる化成

博士後期課程

【公務員・教員】

国内: 出雲文化環境部文化財課/同志社女子大学/倉敷市立短期大学/福山大学/北九州工業高等専門学校/岡山県庁/赤峰学院/徳島文理大学/岡山ビジネスカレッジ

【企業等】

国内: MIMOCA丸亀市猪熊弦一郎現代美術館/立命館大学 衣笠総合研究機構/岡山県立大学
海外: 中国弁護士事務所/江蘇省弁護士事務所事務員/民主進歩党中央党部国際事務部



修了生からの メッセージ



様々な現場で

活躍している修了生の声を聞いてみよう！

岡山大学大学院での五年間

岩崎 真梨子 さん【八戸工業大学・講師】
博士後期課程 社会文化学専攻 人間社会科学講座 平成24年度修了



大学院では日本語史を専攻し、形容詞性接辞「ばい(子どもっぽいや、ギャルっぽいや)」や「らしい(女らしい、春らしいなど)」の変遷について調査しました。

私は成績優秀な学生ではありませんでしたが、指導教員の先生は、私が自力で研究を進めるのを辛抱強く待ってくださいました。何度もやり直ししながら少しずつ

研究を深めていき、学内外の学会や研究会で発表を重ね、論文を発表しました。また、研究を続けるなかで、尊敬できる多くの仲間に出会えました。

今改めて振り返ると、とにかく周りに恵まれ、全力で生きた5年間でした。私は、幸運にも修了と同時に研究職に就けましたが、これも周りの援助なしには成し得なかったことだと思います。苦しい時間も含めて、本当に充実した日々を過ごせたと感じています。

経験を重ね、 学ぶ楽しさを実感した充実の二年間

山本 尚見 さん【商工中金】
博士前期課程 公共政策科学専攻 地域公共政策コース 平成27年度修了



私は学部生の時から関わっていたまちづくり活動を、専攻分野である行政法の観点から研究したいと思い、大学院に進学しました。大学院の授業は少人数のゼミ形式が多く、報告の機会も多く頂き、先生方には大変熱心なご指導を頂きました。

院生生活の中で最も印象深い経験は、オレゴン州ポートランドでの研修に参加したことです。ポートランドは私の研究テーマである住民参加型まちづくりの先進都市で、先生方と一緒に現地の大学で研修を受けさせて頂き、様々なフィールドワークに参加したことは本当に貴重な経験になりました。

仕事と学業の両立で、得られる確かな自信

中野 雅樹 さん【グラクソ・スミスクライン】
博士前期課程 組織経営専攻 経営学講座 平成27年度修了



製薬企業に勤務する営業職の私は、マーケティングなど経営に携わる部署で勤務したいという目標を持って入学しました。長期履修制度を利用し3年間の学習期間を得たわけですが当初、会社の方針などに不満があり、大学院での学びが、『処方せん』のようなものになることを期待していました。しかし、大学院での学びは、一朝一夕で成果につながるのではなく、仕事と学業の両立の中で削られる睡眠時間などから、自身を高める力は在学期間を通して修得したのだと思います。

同じ環境で学ぶ社会人大学院生との交流や、高度な知識を持った先生方からのアドバイスは日常業務では得られない多くの発見を頂戴しました。得られた学びと、仕事上の課題を結び付ける、論文作成は今までの仕事人人生を振り返り、まとめる為の非常にかげがえのない時間となるでしょう。

同じ環境で学ぶ社会人大学院生との交流や、高度な知識を持った先生方からのアドバイスは日常業務では得られない多くの発見を頂戴しました。得られた学びと、仕事上の課題を結び付ける、論文作成は今までの仕事人人生を振り返り、まとめる為の非常にかげがえのない時間となるでしょう。

自分自身との戦いに勝とう

町田 余理子 さん【榎山女学園大学・専任講師】
博士後期課程 社会文化学専攻 政策科学講座 平成22年度修了



大学院では民法を専攻し、主に譲渡担保について研究していました。本学研究科の良い点は、学生が少人数であるため、先生方や職員の方々が親和的かつ協力的である点や、さまざまな境遇を持った人たちが在籍しているため、一緒に研究することによって視野を広げられる点が挙げられます。しかし、異なる目的意識を

持っている人たちが集まる場でもあるため、自分自身を強く持つ必要があります。以前、博士後期在学時にヘンリー・A・キッシンジャー博士に質問した際、「自分の信念を持って焦らずに」とアドバイスをいただきました。この経験は、現在大学教員として働くうえでも大変役に立っております。研究は苦しいこともあります、続けていくことが重要であると思います。ぜひ、向上心を持って自分自身との戦いに勝ってください。

在学生からの メッセージ

日々学びの手応えを実感しています

仲間と互いに学びあう研究生生活

松島 空美子 さん

H27年度入学：博士前期課程 比較社会文化学専攻 言語情報講座



授業では、先生方の研究分野の最新的话题に触れ、その中から自分の研究に生かせる部分を考え、吸収するように努めています。また、クラスメイトとは学部生のころよりも関わりが深くなったと感じています。進学しなければ出会うことのなかった留学生や社会人の方など、さまざまな境遇の仲間たちの多様な意見に触れ、議論を深めることで、日々よい刺激を得ています。研究では悩むことも多いですが、気軽に声を掛け合えるクラスメイトと助言しあい、励ましあいながら取り組んでいます。

このような恵まれた環境の中で、社会に出るまでの短い時間ですが、残りの学生生活もさらに充実したものとなるよう日々学び続けます。

このように恵まれた環境の中で、社会に出るまでの短い時間ですが、残りの学生生活もさらに充実したものとなるよう日々学び続けます。

65才からのMBAへの挑戦

長光 正明 さん

H27年度入学：博士前期課程 組織経営専攻 経営学講座



今、66歳の大学院2年生である。思い立ったのは、年金生活を前にした65歳になる一月前であった。同期生は中国人留学生の一人を除き全員社会人である。20才代、30、40、50、60才代(私)まで全て出揃っている。まさしく世代を超えた教室での授業となる。世間では、66歳で大学院？ついていけないの？老眼鏡かけて？恥かかないの？…(余計なお世話である)。

確かに、授業が始まるまでは一抹の不安はあった。しかし、授業を受けてみると、杞憂であることが判る。実に和気あいあいとしていい雰囲気である。解らなければ遠慮なく(厚かましく)自由に質問できる。中には、ヘンな(否、個性の強い)先生に戸惑うが、じきに慣れる。団塊の最後の世代の66歳の挑戦である。同世代の初老よ!“今どきの若い者”に遅れをとることは無い。MBAも冥土の土産にはなろう。

私達と議論してみよう

管 鑫 さん

H27年度入学：博士前期課程 比較社会文化学専攻 比較国際法政講座



高校生の頃から法曹について興味を抱き、母国の大学の法学部で学びました。卒業した1年後、岡山大学へ進学。現在、私は、大学院で国際私法を研究しています。グローバル化の進展に伴って、国境を越えた法律問題が多発し、どうすれば紛争を円満に解決することができるのかを研究することは、非常にやり甲斐があります。大学院での授業は、一方通行で

はなく、学生と先生との議論が中心です。毎回の授業では、学生の報告や発言がとても大切だと感じています。また、先生との距離もとても近くて、質問しやすい雰囲気は学生にとって心強く感じます。不明な点があれば、授業の参加者全員が積極的に議論に加わっていくことが重要だと思います。大学院は議論する場所。国籍が違っても、意見が違っても、視点が違っても、自分の考えを言ってみましょう。大学院で私達と自由に議論してみましよう。

夢を与えてくれた学都

呉 揚 さん【日本学術振興会特別研究員・第6回育志賞受賞】

H26年度入学：博士後期課程 社会文化学専攻 人間社会科学講座



大学の卒論は自ら日本語の文法に関するテーマを選びましたが、論文執筆の間、疑問が増えたとともに好奇心も湧き、日本語学をちゃんと学びなおしたいという思いを抱えて岡山大学への留学を決意しました。岡山大学は、静かで緑があふれていてとても落ち着きます。研究に集中したい私にとっては最高の場所です。研究に対して不安や迷いもたくさん

ありましたが、研究の方法から研究の細部まで、指導教官がいつも親身になって指導してくださっています。このやりとりの中で、言語の本質に対する理解が深まっただけでなく、物事や世界に対する思考力も強まったと感じています。今は、専門における自信もつき、優秀な言語学者になるという目標を目指して、着実に研究を進めています。この夢を与えてくれた岡山大学に感謝します。

